

## 令和 7 年度第 1 回三鷹市地域公共交通活性化協議会議事要旨

### 1. 日時

令和 7 年 7 月 14 日（月）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

### 2. 場所

議事棟 3 階 協議会室

### 3. 出席者

【委員】出席 23 名、欠席 4 名 【事務局】 3 名 【傍聴者】 1 名

### 4. 主な内容

(1) 委嘱状交付（机上配布）

(2) 会長挨拶

(3) 久野副市長挨拶（代理：池田都市再生部長）

(4) 議事（決定事項）

副会長の選出について

(5) 議事 協議事項

ア 地域内交通運営部会の設置について

(6) 議事 報告事項

ア みたかシティバス運賃内容の一部改定について

イ 三鷹・境循環共同運行ルート（ムーバス 7 号路線）の運行について

ウ その他

## ■議事

### 協議事項

#### ア 地域内交通運営部会の設置について（資料 1）

- ・事務局より、資料 1 に基づき、以下のとおり概要を説明した。

#### 概要

- ・交通総合計画に基づき、施策を推進する事業の 1 つとして「地域内交通運営部会」を立ち上げる。
- ・当該運営部会は本協議会の下に設置する。
- ・当該運営部会の役割は地域内交通である A I デマンド交通運行状況評価、検証、運行内容の見直し案、利用促進策の検討などとする。
- ・任期は本協議会任期と合わせ、令和 8 年 6 月 30 日までとする。

【委員発言】

- ・昨年度までであったコミュニティ交通実証運行評価・検証検討会との違いを教えてください。

【事務局回答】

- ・実証運行から本格運行へ移行したため、評価・検証よりも地域内交通を地域に定着させる部会としたい。

【委員発言】

- ・本格運行後のA I デマンド交通を地域の中で検討していくという設立趣旨であればエリアの代表が集まって全体で議論するよりも地域ごとに議論する場がよいのではないか。地域ごとに議論する場は別にあるのか。

【事務局回答】

- ・本部会は全体調整の場とし、地域に部会のようなものを新たに位置づけることはせず、必要に応じて地域の声を吸い上げに事務局が赴くことを想定している。
- ・地域特性はあると思うが、運行に関しての細かいニーズを聞いて全体で調整していきたい。

【委員発言】

- ・持続可能な交通サービスを提供するために、地域の意識を変革し、交通に合わせた生活スタイルに見直してもらうことが重要。

【会長発言】

- ・子育て支援の視点からも意見を聞けるとよい。
- ・この先デマンドを検討しているエリアがあればその地域の人を委員に追加してはどうか。

【事務局回答】

- ・子育て支援の視点から意見を聞く方法を検討する。
- ・今年度は立ち上げということもあり、現在運行しているエリアを対象に進めていきたい。

【会長発言】

- ・部会の設立趣旨を考えると委員はもっと多様性を持たせても良いのではないか。

【事務局回答】

- ・本部会は全体調整の場とし、委員の追加については今後検討する。

【委員発言】

- ・部会の内容は本協議会にどのように報告があがってくるのか。

- ・実証運行中に実施したアンケートの類は継続して実施するのか。

【事務局回答】

- ・部会後に開催される本協議会において、部会での資料や検討事項等を適宜報告していく。
- ・アンケートの類は必要に応じて適宜実施する。

【委員発言】

- ・広く意見を吸い上げるため、ヘビーユーザーを委員に追加してはいかがか。

【事務局回答】

- ・部会は各方面からの意見を全体で調整する場としたい。ヘビーユーザーから意見を聞くのも1つの方法であるし、それ以外にもさまざまな方面から声を吸い上げ、部会で協議し、本協議会で報告するような進め方を考えている。

【委員発言】

- ・必要に応じて多様な声を吸い上げることを資料に記載できるとよい。

【事務局回答】

- ・資料に記載するか検討する。

【委員発言】

- ・地域からの選出で委員を務めているが、地域には子育て中の方もおり、日々、さまざまな方から声を聴き本協議会に出席している。子育て中の方がこのような会議に出席するのは困難だと思う。

【委員発言】

- ・日頃から地域の声を集めることはしていないが、必要であれば地域の中の保育園や小学校に働きかけることは可能だと思う。

【事務局回答】

- ・子育て中の方から声を聴く方法については内部で検討する。

【会長発言】

- ・部会の名称を「A I デマンド交通運営部会」とするのはいかがか。

【事務局回答】

- ・変更する方向で検討する。

【委員発言】

- ・コミュニティ交通実証運行評価・検証検討会は再任せず、部会に移行する認識でよい。

【事務局回答】

- ・お見込みのとおり。

【会長発言】

- ・部会委員に学識経験者がいないのは賛成する。部会が地域との情報共有をどのように行うかが重要。

【委員発言】

- ・委員に学識経験者がいない中で、委員の中から取りまとめ役を選出するのか。

【事務局回答】

- ・取りまとめは事務局で行う。

【委員発言】

- ・A I デマンド交通開始当初は高齢者向けと思っていたが、実際は幅広い世代に利用され、小学生の塾通いでの利用もあるので幅広く声を聴けるとよい。

【会長発言】

- ・免許を持っていない子どもの移動手段は重要。教育関係からも声を聴けるとよい。

## 報告事項

### ア みたかシティバス運賃内容の一部改定について(資料2)

- ・事務局より、資料2に基づき、以下のとおり概要を説明した。

**概要**

- ・令和7年4月1日より、障がい者用交通系ICカードの発行対象者に精神障害者手帳所持者が追加されたことに伴う運賃改定。
- ・対象はみたかシティバス北野、三鷹台、明星学園、三鷹の森ジブリ美術館循環の各ルート。
- ・改定日は令和7年6月1日。
- ・本件は運賃協議部会での承認事項となり、本協議会では報告事項である。

【委員発言】

- ・精神障がい者の手帳は他の手帳と比べ、唯一更新があるため取り扱いが難しいところがあると思うが、利用者からすると分かりづらい。バス事業者ごとの判断のようだが、統一的な対応や分かりやすい周知を検討してほしい。

【事務局回答】

- ・バス事業者によって対応が異なるのは利用者にとって分かりづらいと思うが、運行委託しているバス事業者によって事情が異なるため、三鷹市だけ独自で統一的な対応を取るのは難しい。市とバス事業者で分かりやすい広報を行いたい。

【会長発言】

- ・バス事業者ではどのように考えているのか。

【委員発言】

- ・精神障がい者の手帳が割引対象になったのは比較的最近のため、バス事業者に判断が委ねられている。経営方針が異なるため、統一的な対応は難しいと思う。

【委員発言】

- ・今後、統一的な対応となった際は、分かりやすい広報をお願いしたい。

イ 三鷹・境循環共同運行ルート（ムーバス7号路線）の運行について（資料3）

- ・事務局より、資料3に基づき三鷹・境循環共同運行ルート（ムーバス7号路線）がお盆期間中に土休日ダイヤにて運行する旨について説明した。

ウ その他

【委員発言】

- ・大沢4丁目、5丁目は水害の危険性がある地域だが、避難指示が出た場合にA I デマンド交通を活用できないか。

【事務局回答】

- ・市と一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会武三支部は防災協定を結んでおり、先日、大沢で水防訓練を行った際にはタクシーを配車して移動が困難である要配慮者に対し、福祉避難所への移動支援訓練を実施したと聞いている。A I デマンド交通を転用する場合、精算方法等を検討しなければならず、今すぐの転用は難しいが、避難時にタクシー等を活用する考えを市は持っている。

【委員発言】

- ・このような話は今後地域内交通運営部会で議題となるか。

【事務局回答】

- ・議題に関してはこれからの調整だが、地域の声が多ければ部会で取り扱いたい。

【委員発言】

- ・運行時間の延長やシティバスについて朝の時間帯増便の希望が地域から出てい

るが、このような話も今後地域内交通運営部会で議題となるか。

【事務局回答】

- ・地域内交通運営部会はA I デマンド交通を中心に扱いたいと考えている。  
A I デマンド交通の運行時間の延長についてはこれまで通り利用状況を注視し、必要であれば見直しを図る。シティバスの増便についても状況を注視するが、バス事業者からは運転士不足が深刻なため、対応は難しいと聞いている。

【委員発言】

- ・三鷹駅南口に増設したバス降車場の現状について教えてほしい。
- ・ミッドナイトシャトル三鷹という事業が開始しているようだが、本協議会で聞いたことがない。市はどのような立場なのか。

【事務局回答】

- ・三鷹駅南口に増設したバス降車場は4月より運用を開始し、7月上旬に南口駅前広場全体で運用状況調査を実施した。結果がまとまり次第、協議会にて報告する。
- ・ミッドナイトシャトル三鷹は、民間事業であり、本協議会の承認案件ではない。  
事業者からの情報ではJ Rの終電が三鷹止まりのため、三鷹より西に向かう利用客を相乗りタクシーで輸送する実証運行と聞いている。

【委員発言】

- ・ミッドナイトシャトル三鷹は東京ハイヤー・タクシー協会武三支部のタクシー会社3社で請け負っている。現在は金曜と土曜のみの運行だが、利用実績は少ない。詳しい数字が出たら報告する。
- ・A I デマンド交通も請け負っているが、こちらは実証運行から本格運行となり、事業内容が運転手に浸透したこともあり、乗務希望者が社内で増えつつある。

【事務局】

- ・次回の活性化協議会は、令和7年12月頃の開催を予定している。